

等ハ外交上不具合ナリ

參謀總長

南佛ニハ兵ハ入ラス、昆明ニ向フ爲北佛ニ多敵ノ軍カ入
ルト云フ様ニ宣傳セルモノナリ

十月十二日五相會議（近衛、豊田、東條、及川、鈴木）

陸軍大臣説明ス

豊田

日米交渉妥結ノ余地アリ、ソレハ陸兵問題ニ多少ノアヤツ
ツケルト見込カアルト思フ、妥結ノ妨害ハ北佛ノ兵力増加
ハ妥結ノ妨害ヲシテル之ヲ止メレハ妥結ノ余地アル

近衛

九月六日ノ日本側提案ト九月二十日ノ提案トノ間ニハ相當
ノ間キカアル、米側カ誤解シテ層ルニアラスヤト思ハル、
之ヲ檢討セハ妥結ノ道アラム

東條

判断ハ妥結ノ見込ナシト思フ、凡ソ交渉ハ互譲ノ精神カナ
ケレハ成立スルモノテナイ、日本ハ今日進歩ニ譲歩シ四
原則モ主義トシテハ之ヲ認メタリ、然ルニ米ノ現在ノ態度



及川

ハ自ラ妥協スル意志ナシ、先般ノ回答ハ九月六日九月二十日ノ我方ノ審判ニ對スル回答ト存ス

東條

外交テ進ムカ戦争ノ手段ニヨルカノ岐路ニ立ツ、期日ハ切迫シテ居ル、其決ハ總理カ判断シテナスヘトモノナリ、若シ外交テヤリ戦争ヲヤメルナラハソレテモヨロシ
問題ハソウ簡單ニハユカナイ、現ニ陸軍ハ兵ヲ動かシツツアリ、御前會議決定ニヨリ兵ヲ動かシツツアルモノニシテ今ノ外交ハ普通ノ外交ト違フ
ヤツテ見ルト言フ外交テハ困ル

日本ノ條件ノ線ニソツテ統帥部ノ要望スル期日内ニ解決スル準備カモテルナレハ、戦争準備ヲ打切り外交ヲヤルモヨ

ロシイ、其準備ハアヤフヤナ事カ基礎テハイカス、此ノ線ナコトテ此大問題ハ決セラレヌ、日本テハ統帥ハ國務ノ圖外ニ在ル、總理カ決心シテモ統帥部トノ意見カ合ハナケレハ不可ナリ、政府統帥部ノ意見カ合ヒ御裁斷ヲ要ス、
總理カ決心シテモ陸軍大臣トシテハ之ニ盲従ハ出来ナイ、我輩カ納得スル準備テナケレハナラナイ、納得出来ル準備カアルナラ戦争準備ハ止メル準備ヲモタナケレハ總理カ決斷ヲシテモ同意ハ出来ヌ、現ニ作戦準備ヲヤツテ居ルノテ之ヲヤメテ外交タケヤルコトハ大問題タ、少クトモ陸軍トシテハ大問題タ、充分ナル準備ナケレハ困ル
外相ニ準備カアリマスカ、北部佛印ノコトナトハ些末ノ問

顯タ、弊交亦越ヒカガラエオヤウチ問題未起キルモ、タサイ
外交カ延ヒルカラアノ機ナ問題カ起キルノタ、陸軍カヤル
カラ外交困ルト言ハレルノハ迷惑タ、軍ノヤツトル基準ハ
御前會議決定ニヨツテオトルノタ、

豊田

遼慮ナイ語ヲ許サレルナレハ(本項ハ特ニ記述ヲ避タル様
注意アリ取扱上留意ヲ要ス)

御前會議御決定ハ輕率タツタ、前々日ニ審判ヲモラツテヤ
ツタ

東條

ソシナコトハ困ル重大ノ責任テヤツタノタ

近衛

戰爭ハ一年二年ノ見込ハアルカ三、四年トナルト自價ハナ
イ不安カアル

東條

ソシナ問題ハ此前ノ御前會議ノ時ニ決ツテ居ル

七月二日ノ御決定ニ南方ニ地歩ヲ進メ北方ハ解決スト練リ
ニネツテキメラレタノタ

各角度カラ責任者カ研究シ其實任ノ上ニタツタモノテソシ
ナ無責任ナモノテハナイ、及川ノ態度ハ京報

(及川ノ態度ハ東條ニ同意スルト稱シ何レニカ決セサルヘ
カラス、而シテ之ハ總理カ決スヘキナリト言ヒ我方ノ條

件ニハフレス又武力テヤレトモ言ハス總理ニ定メサセテ
責任ヲ總理ニトラセル一方ナルヘク外交テヤル機ニ促ス

據ナ風ニ觀察セラル)

近衛

今トチラカテヤレト言ハレレハ外交テヤルト言ハサルヲ得

ス、戦争ニ私ハ自信ナイ、自信アル人ニヤツテ實ハネハナ
テス

東條

コレハ意外タ、戦争ニ自信カナイトハ何テスカソレハ「國
策進行要領」ヲ決定スル時ニ論スヘキ問題テセウ、外交ニ
見遣シアリト言フ態度テハイケナイ、確信カナケレハイケ
ナイ

東條

皆ノ斷ハ結局次ノ様ニナル

(4) 日米交渉問題ハ駐兵問題ヲ中心トスル主要政策ヲ變更セ
ス

(4) 支那事變ノ成果ニ動搖ヲ與フルコトナシ

右ノ條件ニテ略々統帥部ノ所望スル期日迄ニ外交ヲ以テ妥

結スル方針ヲ以テ進ム而シテ作戰準備ハ打切ル

右ノ確信ヲ外相トシテ持チ得ルヤ否ヤヲ研究スルノ要アリ
而シテ私ハ外相總理ノ此ノ確信ノ具体的根據ヲ何ヒ眞ニ作
戰準備ヲ打切ルモ、外交ニテ打解スル確信ナリト納得スル
ノチナケレハ險相トシテハ外交テヤルコトニ贊意ヲ表スル
ワケニハユカス

尙細部ニ就テ言ヘハ駐兵問題ハ陸軍トシテハ一步モ譲レナ
イ、所要期間ハ二年三年テハ問題ニナラス、第一撤兵ヲ主
体トスルコトカ問題違ヒテアル、退却ヲ基礎トスルコトハ
出来ヌ陸軍ハガタカタニナル、支那事變ノ終末ヲ駐兵ニ求メ
ル必要カアルノタ日支條約ノ通リヤル必要カアルノタ、所

望期間トハ永久ノ考ヘナリ、作戰準備ヲ打切ツテモ出來ル
ト言フ確信カナケレハイカヌ、ヤツテ見テ出來ヌカラ統帥
部ニヤレト言フノテハ支離滅裂トナル、吾輩ハ今日迄軍人
軍屬ヲ統督スルノニ苦勞ヲシテ來タ、輿論モ青年將校ノ指
導モトウヤレハトウナルカ位ハ知ツテ居ル、下ノモノヲオ
サエテ居ルノテ軍ノ意圖スル處ハ主張スル、御前テテモ主
張スル考ヘナリ

鈴木
歐洲情勢ヲ検討セネハイカヌ獨伊カ軍獨縛和ヲヤルコトハ
困ル(鈴木總裁ハ直ニ外交切リ開戦決意トハ考ヘアラス)

開戦前ニ
十月十四日午前十一時五十分ヨリ約二十分間
開戦ニ於ケル陸軍大臣説明ノ要旨

近衛
日米交渉ハ六カシイカ駐兵問題ニ何トカ色ツヤツツケレハ
外交ノ見込アリト思フ

東條
種々説明シ要スルニ陸軍トシテハ駐兵問題ヲ譲ルコトハ出
來ナイ看板ヲスリカヘル等言フカ之ハ撤兵ト言フノテ軍ノ
志氣ニ關ス之ハ譲ラス駐兵^{以外ニ}モ問題ハ殘ツテ居ル駐兵
カ中心トナルト言フノハ當方ノ想像タ之ヲ譲ルモ駄目テ全
部嚙呑ミニシナケレハマトマラス譲ル^モハ成功スルカ如何カ
疑問タ

